

5 日常の点検・手入れ

5.1 定期点検表

点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具が必要なものが含まれています。お客様自身で実施できない点検内容についてはお買い求めの販売店へ依頼してください。

注意



正常な機能を維持するために定期点検を行う。

※ 点検や整備を怠ると事故の原因となります。

点検・手入れは、運転を停止し、ストーブが充分冷えてから行う。

※ やけど・けがの原因になります。



燃焼室内を掃除するときや燃料を補給するときは、必要に応じてマスクを使用する。

※ ススやおが粉を吸い込むと健康に影響を及ぼすおそれがあります。

| 点 検 内 容 | 点検時期 | | | 備 考 | 参照 ページ |
|-------------|-------------|------------------|----------------------------|------------------------------------|-----------|
| | 点 火 前 | 1 か 月 毎 | 必 要 に 応 じ て | | |
| ロストルの掃除 | ● | | | | 39 |
| 周囲の確認 | ● | | | | 16 |
| 灰受／バッフルの掃除 | | | ● | 強燃焼（P4）のとき、10時間 弱燃焼（P1）のとき、40時間 | 41 |
| 窓ガラスの手入れ | | | ● | 透明度が悪くなったら | 43 |
| クリンカの掃除 | | | ● | クリンカができてきたら | 44 |
| 本体と温風吹出口の掃除 | | ● | | 1か月に1回程度 | 47 |
| 天板下の掃除 | | | ● | ほこりがたまってきたら | 48 |
| 給排気筒トップの点検 | | ● | | 1か月に1回程度 | 49 |
| 給排気筒の点検 | | | ● | シーズンの初め | 51 |
| 販売店による定期点検 | | | ● | 1シーズンに1回程度 | 51 |

5.2 ロストルの掃除

点火前

掃除

⚠ 注意



ロストルの掃除は、運転を停止し、ストーブが充分冷えてから行う。

※ やけど・けがの原因になります。



ロストルを取り外したときは、落とさないように注意する。

※ 足などに落下した場合、けがの原因になります。

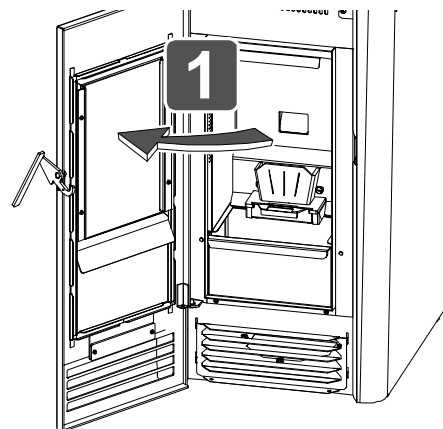
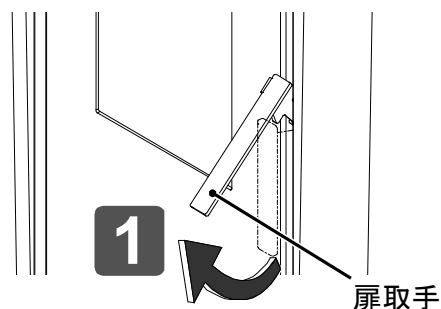
1

本体が常温になってから、扉取手を手前に引き、燃烧室扉を開けます。



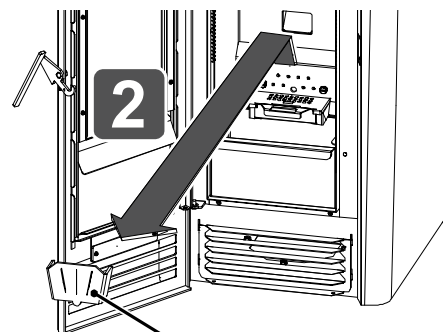
お知らせ

- 燃烧室扉を開けると、クリーニング機能（1）を使うと、飛散する灰を軽減できます。（P.27ページ）



2

ロストル囲いを取り外します。



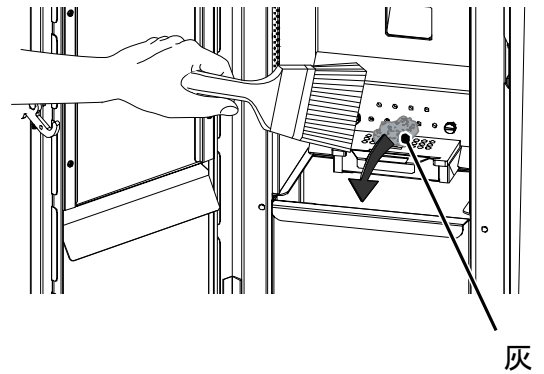
ロストル囲い

3 付属品の掃除用ハケで灰を灰受に落とします。

- ロストルの穴に詰まった灰も念入りに取り除いてください。

！ お願い

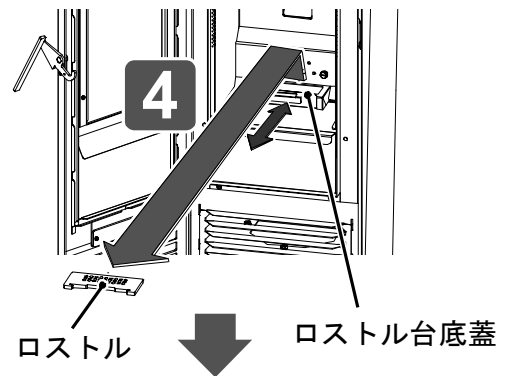
- 点火用の熱風吹き出し穴に灰を押し込まないでください。
灰が詰まると点火失敗の原因になります。



4 ロストルを外して、ロストル台底蓋を押し引きしてロストルの下にたまった灰を落とします。

！ お願い

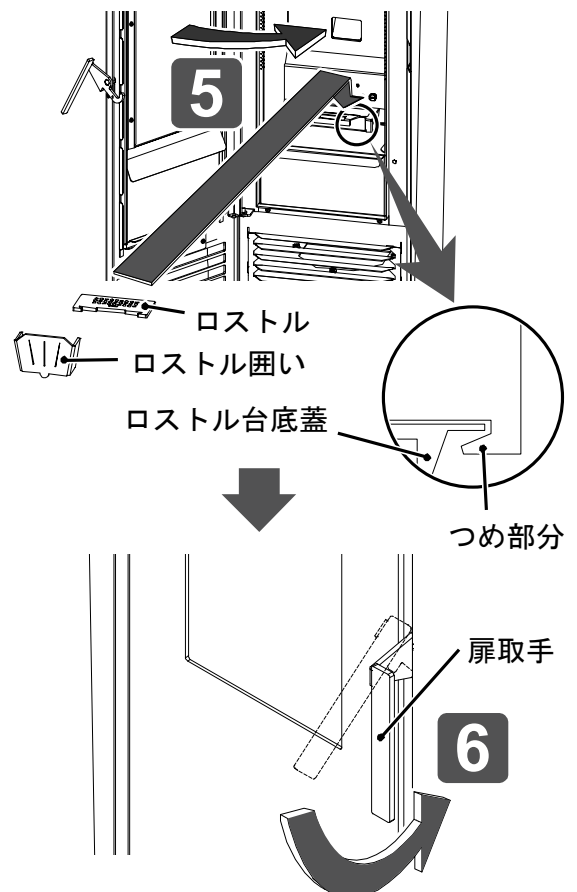
- ロストルの下にたまった灰は定期的に落としてください。
灰がたまると燃焼不良の原因になります。



5 灰を落とし終わったら、ロストル、ロストル囲いを取り付け、燃焼室扉を閉じます。

！ お願い

- ロストルを取り付けるときは、ロストル台底蓋を奥までしっかり入れ、図のようにロストルの先のつめ部分の溝にロストル台底蓋がおさまるようにセットしてください。
また、ロストル囲いの突起をロストルの溝にセットしてください。
間違った取り付け方をすると燃焼不良の原因になります。



6 扉取手を最後まで押し、燃焼室扉をしっかりと閉めます。

5.3 灰受／バッフルの掃除

10～40時間

掃除

灰受は強燃焼（P4）で10時間、弱燃焼（P1）で40時間をめどに必ず灰を捨ててください。次の方法で確認、掃除をしてください。

警告



灰受の灰を定期的に捨てる。

※ 灰受がいっぱいになった後も使用を続けると、火災や事故の原因になります。

注意



灰受の掃除は、運転を停止し、ストーブが充分冷えてから行う。

※ やけど・けがの原因になります。

灰受に未燃ペレットがこぼれている場合は、灰受がいっぱいになっていなくても捨てる。また、熱い燃えカスや火気に充分注意して捨てる。

※ 灰受でペレットが燃えると、ストーブの故障、破損の原因になります。



バッフルの掃除は運転を停止してから行う。

※ やけど・けがの原因になります。

バッフルの掃除は定期的に行う。

※ バッフルに灰がたまったらそのまま使用を続けると、燃焼不良の原因になります。



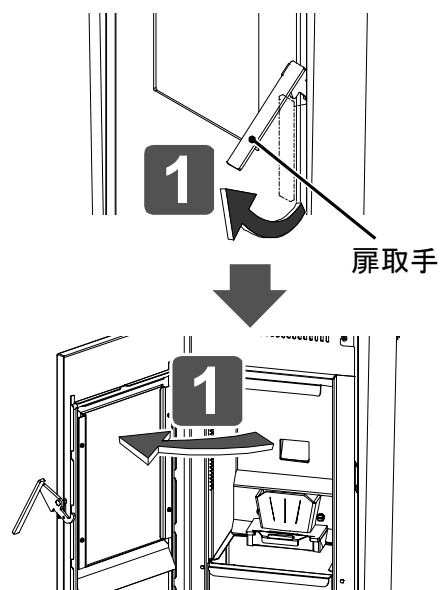
必ず灰受を取り付けて使用する。

※ ストーブの故障、破損、事故の原因になります。

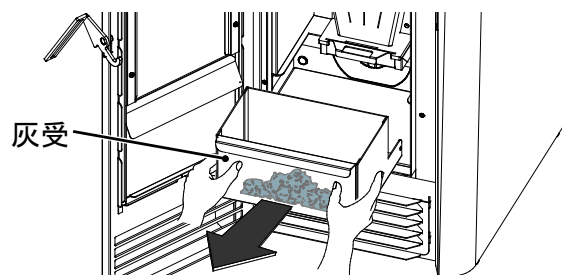
- 1** 本体が常温になってから、扉取手を手前に引き、燃焼室扉を開けます。

お知らせ



- 燃焼室扉を開けると、クリーニング機能（1）を使うと、飛散する灰を軽減できます。（P27ページ）

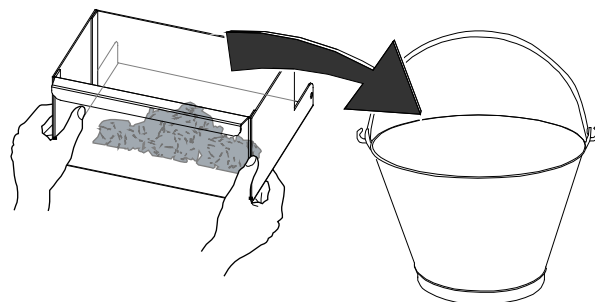


2 灰受を手前に引き出します。



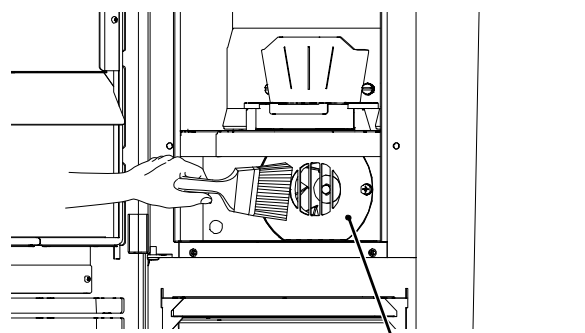
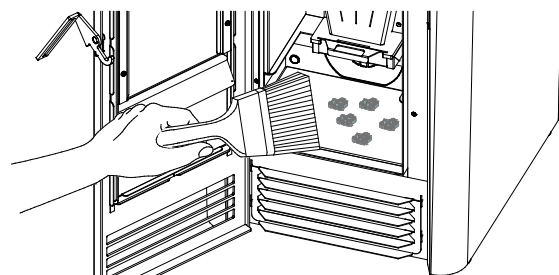
3 灰受にたまった灰を捨てます。

| | |
|---|---|
|  警告 | |
|  | <p>灰を取り出すとき、および灰を捨てる時は、熱い燃えカスや火気に注意する。</p> <p>※ やけど・けがや火災のおそれがあります。必要に応じて手袋を使用してください。</p> |



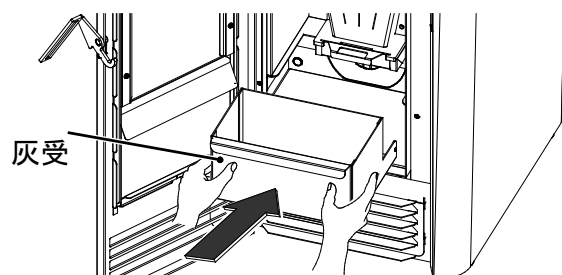
4 本体側にたまった灰も、付属品の掃除用ハケでかき出します。

- 灰を奥側へ押し込まないでください。また、排気ファンのフィンガーガードに付着した灰も、きれいにはらってください。

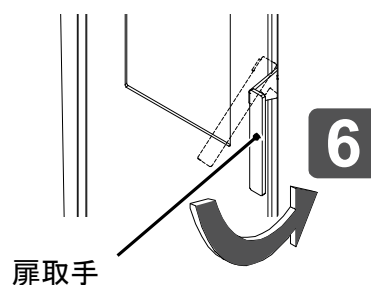


フィンガーガード

5 灰受を取り付けます。



- 6** 燃烧室扉を閉じて、扉取手を最後まで押し、燃烧室扉をしっかりと閉めます。



5.4 窓ガラスの手入れ

適宜

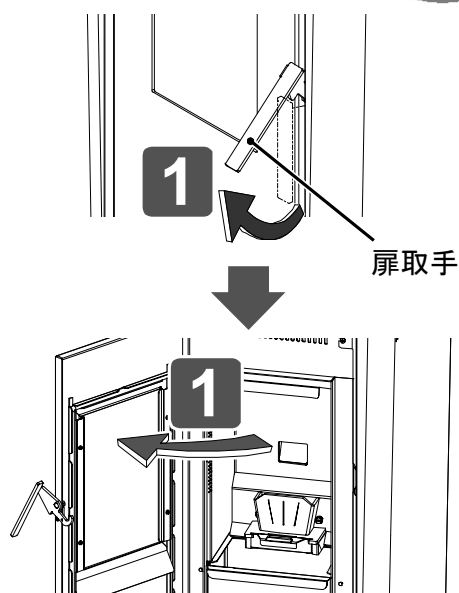
手入れ

窓ガラスの透明度が悪くなったときは、以下の手順で手入れを行ってください。

- 1** 本体が常温になってから、扉取手を手前に引き、燃烧室扉を開けます。

お知らせ

- 燃烧室扉を開けると、クリーニング機能（1）を使うと、飛散する灰を軽減できます。（P.27ページ）



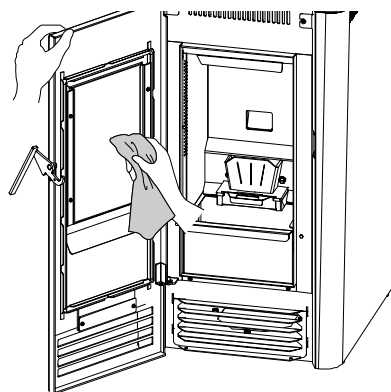
- 2** 内側より、少し水を含ませた布などで窓ガラスをふきます。

注意



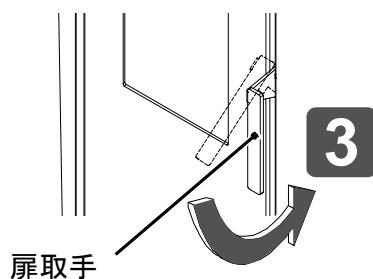
あまり強く押えすぎない。

※ 窓ガラス（耐熱ガラス）が損傷したり、割れた耐熱ガラスだけがを原因となります。



- 窓ガラスに損傷がある場合は、お買い求めの販売店へ交換を依頼してください。

- 3** 燃烧室扉を閉じて、扉取手を最後まで押し、燃烧室扉をしっかりと閉めます。

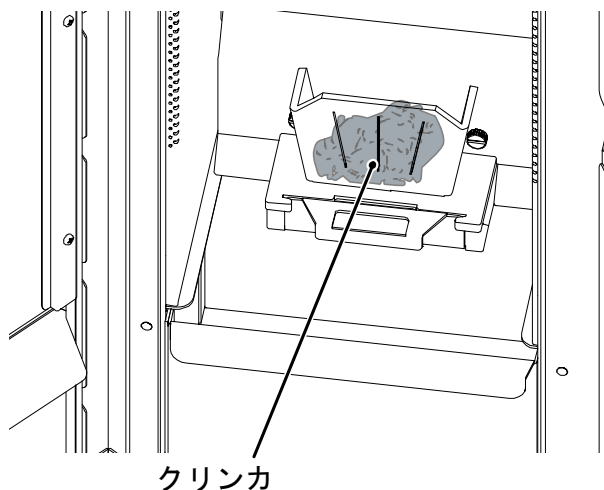


5.5 クリンカの掃除

適宜

掃除

- 燃料の種類によりクリンカ（灰が溶けて固まったもの）ができる場合があります。ロストルにクリンカができると、燃烧に必要な空気の送風がさまたげられ、燃烧不良の原因となります。
- クリンカのできる時間は、木質ペレットの性質、燃烧量によっても異なりますが約3～5時間位です。火力が大きいほど発生しやすくなります。



■掃除手順

⚠ 注意



運転中に確認してクリンカができていた場合は掃除を行う。

※ 運転を続けると完全燃烧しなくなり、煙がでたり、装置の故障の原因になります。



ロストルを取り外したときは、落とさないように注意する。

※ 足などに落下した場合、けがの原因になります。

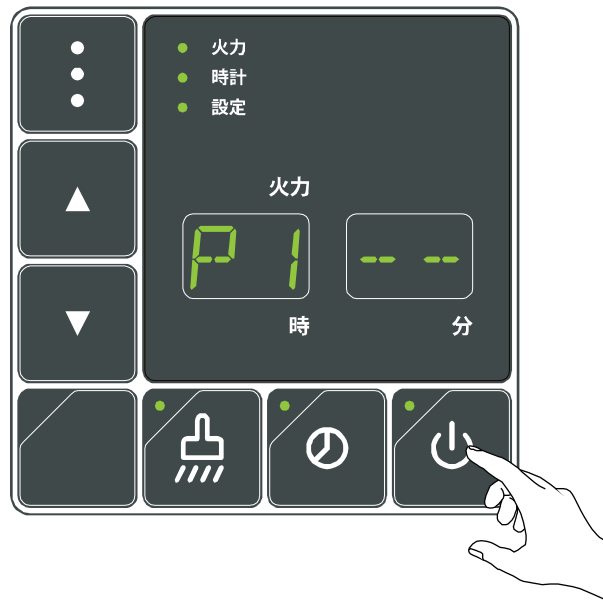
1



を押します。

(☞「4.2 消火のしかた」)

➡ 運転が停止します。

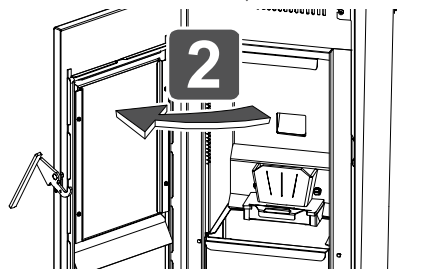
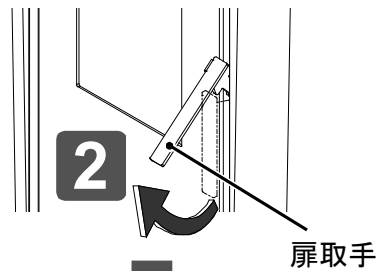


2

消火し本体が常温になってから、扉取手を手前に引き、燃烧室扉を開けます。

お知らせ

- 燃烧室扉を開けると、クリーニング機能(1)を使うと、飛散する灰を軽減できます。(☞27ページ)



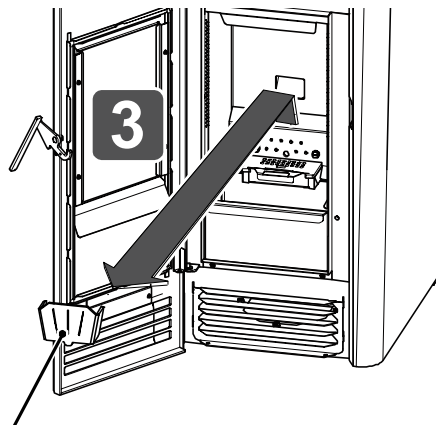
3

ロストル囲いを取り外します。

警告

灰を取り出すとき、および灰を捨てるときは、熱い燃えカスや火気に注意する。

※ やけど・けがや火災のおそれがあります。必要に応じて手袋を使用してください。



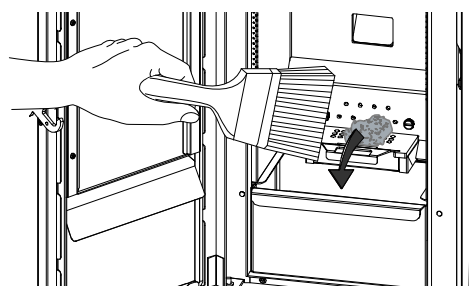
ロストル囲い

4 付属品の掃除用ハケでクリンカを灰受に落とします。

- ロストルの穴に詰まった灰も念入りに取り除いてください。

！ お願い

- 点火用の熱風吹き出し穴に灰を押し込まないでください。
灰が詰まると点火失敗の原因になります。



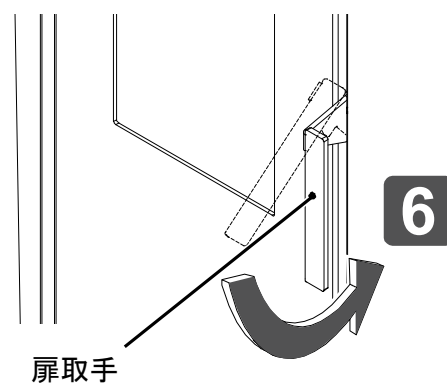
5 クリンカを落とし終わったら、ロストル囲いを取り付け、燃焼室扉を閉じます。

！ お願い

- ロストル囲いの突起をロストルの溝にセットしてください。
間違った取り付け方をすると燃焼不良の原因になります。



6 扉取手を最後まで押し、燃焼室扉をしっかりと閉めます。



5.6 本体と温風吹出口の掃除

1か月に1回

掃除

⚠ 注意



本体をベンジン・シンナーなどでふかない。

※ 塗装の色があせたり、部品が変形する原因になります。



本体と温風吹出口の掃除は、運転を停止し、ストーブが充分冷えてから行う。

※ やけど・けがの原因になります。

1

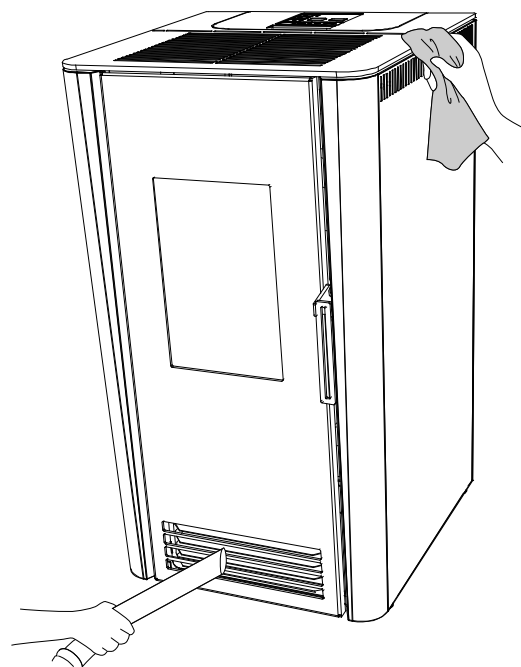
ほこりを掃除機で吸い取ります。

2

汚れは固く絞ったやわらかい布でふき取ります。

！ お願い

- 警告ラベルの汚れはきれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。(P.7ページ)



3

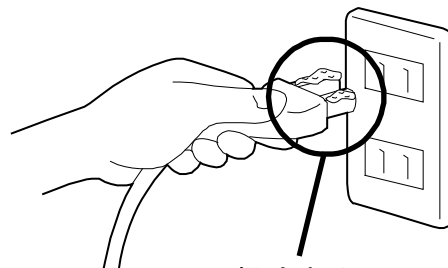
電源プラグの先端部分にたまったほこりを掃除します。

⚠ 警告



ときどきは電源プラグを抜き、ほこりや金属物を除去する。

※ ほこり等がたまると湿気などで絶縁不良になり、火災の原因になります。



掃除する

5.7 天板下の掃除

ほこりが
たまってきたら

掃除

⚠ 注意



天板下の掃除は、運転を停止し、ストーブが充分冷えてから行う。

※ やけど・けがの原因になります。



天板は重い（約5.9kg）ので、取り外すときは無理な姿勢で行わない。

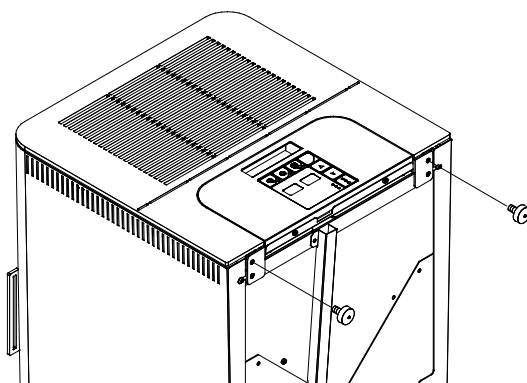
※ 腰などのけがの原因となります。



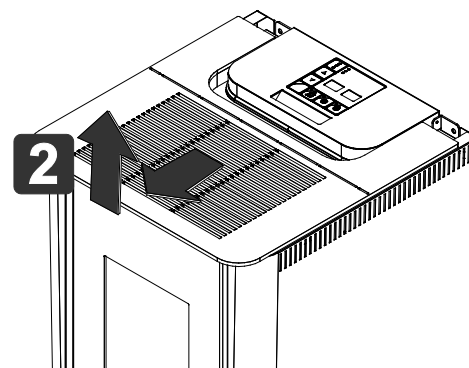
天板を取り外したときは、落とさないように注意し、安定した場所に置く。

※ 足などに落下した場合、けがの原因になります。

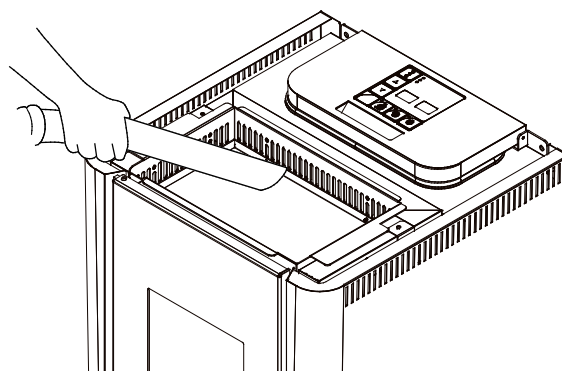
- 1 ストーブ背面側の化粧ねじ2ヶ所を取り外します。



- 2 天板を正面側にスライドさせた後、上に持ち上げ取り外します。

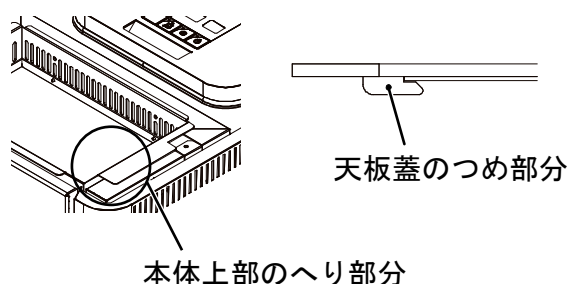


3 ほこりを掃除機で吸い取ります。



4 天板を元の位置に取り付けます。

- 天板裏のつめを本体上部にあるへり部分に差し込むようにして取り付けてください。



5 **1** で外したストーブ背面側の化粧ねじ2ヶ所を取り付けます。

5.8 給排気筒トップの点検

1か月に1回

掃除

警告



給排気筒トップの近くに可燃物を置かない。

※ 火災の原因になります。当社が規定する可燃物との距離を確保してください。



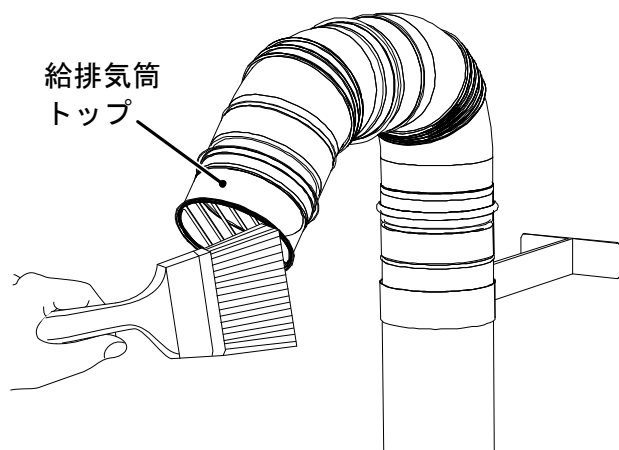
● 給排気筒トップの掃除は運転を停止してから行う。

※ やけど・けがの原因になります。

● 給排気筒トップの掃除は定期的に行う。

※ 排気筒トップに灰が付着したまま使用を続けると、燃焼不良の原因になります。

- 1** 給排気筒トップの網に付着した灰を掃除用ハケ等ではらい落とします。

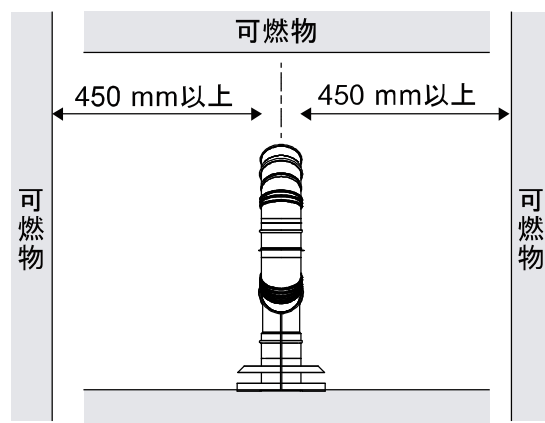
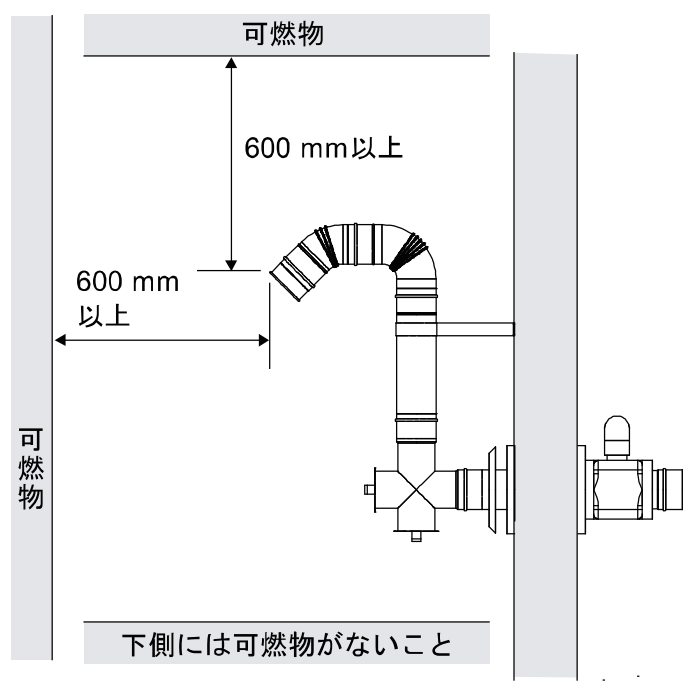


■給排気筒トップの位置

給排気筒トップと可燃物との距離は、右図に従って施工を行ってください。

！お願い

- 給排気筒トップの周りには灰が飛散することがあります。灰で汚れる場合がありますので、付近にものを置かないようにしてください。



■給排気筒と可燃物との離隔距離（断熱施工をしない場合）

排気筒と可燃物との離隔距離は排気筒の半径（40 mm）以上としてください。

5.9 給排気筒の点検

シーズン初め

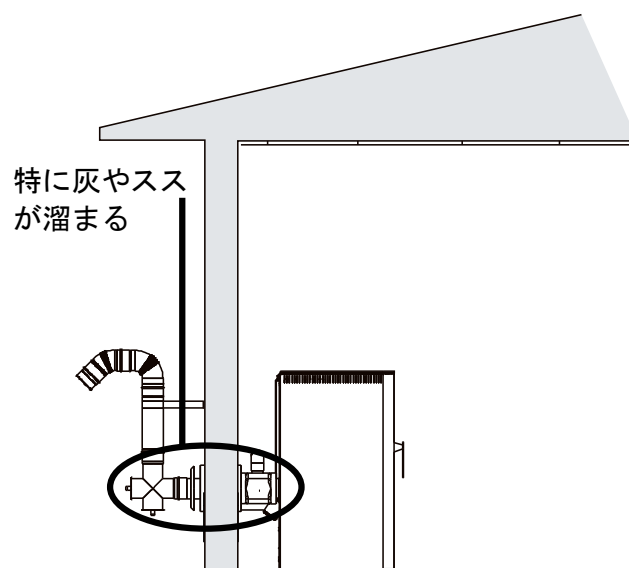
点検

警告



- 給排気筒が正しく接続され、すき間がないか点検する。
※ 排気ガスが室内に洩れて危険です。
- 給排気筒トップの周りが雪でふさがれていないか確認する。
※ 排気ガスを再度吸い込み、不完全燃焼の原因となります。
- オフシーズン中、給排気筒トップにカバーを取り付けている場合は、カバーが取り外されているか確認する。
※ 給排気が行えず、点火失敗、燃焼不良の原因になります。

- オフシーズン中、給排気筒トップにカバーを取り付けている場合は、シーズン初めに必ずカバーを取り外してください。
- シーズン初めには必ず点検し、鳥の巣や異物が入ったりしているときは、必ず掃除をしてください。
- 横引きが長いと灰やススが溜まりやすいので掃除をしてください。



5.10 販売店による定期点検

1シーズンに1回

点検

注意



- 正常な機能を維持するために定期点検を行う。
※ 点検や整備を怠ると事故の原因となります。

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。

1シーズンに1回はお買い上げの販売店に点検を依頼してください。